

かながわ子ども教室

ニ

ュ

ー

ス

第82号

<かながわ子ども教室> (森英敏)

令和元年6月から令和2年5月までの1年間の活動について、報告いたします。

この1年で最も大きな出来事といえば、新型コロナウイルス蔓延による「活動休止」です。まだいまま進行中の出来事です。この話を抜きに私たちの活動を語ることはできないと思います。2月半ば過ぎから「3月の教室は開催を控えたい」という連絡があちこちの主催者から入り始めました。そして2月26日に開催された教室を最後に3月から子ども教室の活動は休止することになりました。この知らせが届いたときには、まだやれるんじゃないかとか、先方がやれと言えればやるべきじゃないかとかいろいろな意見がありましたが、勝浦理事長の英断で「活動休止」になりました。それ以降3月末、4月末と2回にわたり勝浦理事長から「もう1か月休止」という連絡が入り、現在に至っております。非常によい判断だったと思います。3月は予算委員会、実行委員会ともメールを使っての書面会議でしたが、4月、5月の予算委員会はネットを利用して「Zoomによるリモート会議」をやっています。予算委員は12名おりますが、全員がきっちりとおつながるまで手間取ったりしましたが、高齢者ばかりですがなんとか会議をやるできております。

この1年を振り返ってみます。まず数字的にまとめた表(4月~3月のデータ)が下記です。3月の予定がすべてキャンセルになりましたので、昨年に比べてかなり数値的には少なくなっています。恒例の川崎青少年フェスタも中止になりましたので、トータルでは児童の参加者数は昨年比で700人ほど減っています。和歌山でのねんりんピックが大盛況だったおかげで川崎がなくてもこの程度の減少で抑えられたと思います。

	令和元年度	令和2年度
科学教室	128回	110回
暮らしの教室	17回	17回
フェスタ	5回	4回
会員参加者	1,034人	912人
児童参加者	5,298人	4,576人
教室	(3,874人)	(3,369人)
フェスタ	(1,424人)	(1,207人)
保護者等参加者	1284人	1,271人

11月に和歌山で行われた「ねんりんピック紀の国わかやま」は十分なスペースがあり、別会場への通り道にあったこともあり、なかなか盛況であったと思います。このときの様子は長寿社会開発センターの企画で動画配信されました。かながわ子ども教室のホームページの「メディアに出ました」の欄をご覧ください。

今年は新しい会員が4名入会されました。みなさん非常に積極的な方で今後の活躍が期待されます。また新しい教室として「私たちのからだ」「たのしい実験室」の二つの教室が誕生しました。特に「私たちのからだ」は今まで私たちにはない分野であるので今後期待されるかと思いません。また前講師が亡くなり、しばらく中断していた「子どもの化学」が新しい講師のもとで、内容もすっかり新たに復活いたしました。これらの教室は令和2年度の活動が始まれば新しい顔として頑張っていただけと思っています。

とにかく早くコロナがはやく収束し、私たちの活動も元に戻ってほしいと願う毎日です。